

## 子育てコラム 49

性教育(命の教育) その13 「精通を科学的に伝える」 2020.6月号

初めての射精を「精通」と言います。非常勤講師をしている学校で授業の一環として20歳前後の学生に性教育の話をしますが、精通の言葉を知らず自身の精通も分からなかったという男子学生は多くいます。性教育という言葉が使われ始めて半世紀が過ぎ、包括的な性教育が進められている今日ですが、ほとんどの学校で射精教育を中心にした男子への性教育が十分ではない現状です。「月経は手当てを伴うが射精は手当てがないので何もなくていい。そのようなことは自然に知っていくものだし、自分たちも性教育を受けていないが何ら支障はなかった」という考えの方が大勢います。

男女問わず自分の体がどう変化してどのような役割をしているのかを知ることはとても大事ですし、いのちの誕生を知る上で射精と月経は欠かすことができない大切なしくみです。射精・精通について子ども達に伝えていきましょう。それまでに性器を含めた体の名称や簡単なしくみ、体を大事にすることは日常の中で話しておきたいものです。

男子は思春期頃から精巣の中で精子が作られ、個人差はありますが小学校高学年から18歳ごろまでに夢精か自慰で精通が起こります。それよりも早い時期に子どもから勃起などについて聞かれることがよくあります。関心をもって聞いてきた時が話しどきです。絶句したり否定したり話題を変えたりせずに、しくみを科学的に伝えましょう。

ペニスの中は海綿体というスポンジのようなものでできていて、刺激によってそこへ血液が集まると硬くなります。これが勃起で、ペニスが硬くなって上を向いている時は精液が、軟らかく下を向いている時は尿が出るしくみになっていて、出口が同じでも精液と尿が混ざることはありません。精液や尿は汚いものではないので、パンツに付いた時は小学生にもなれば自分でさっと水洗いして洗濯に出すよう教えましょう。

男子の性の悩みは大半が、包茎、ペニスの形、そして自慰や射精に関しです。幼少時から「一人一人みんな違ってあたりまえ」の意識はとても大切です。そして性器を「大切な所なのできれいにしよう」と伝えていきたいものです。自慰に関しては肯定的に話をしましょう。

思春期は性ホルモンによって、体の変化だけでなく気持ちまでもが不安定になります。思春期の心を思いやり「見守る」ことも必要です。

子どもは、大事に思ってくれている人が真剣に向き合って話してくれたことはとても大切に受けとめます。あたたかい信頼関係は自己肯定感の築きにもつながります。